

緑のしるべ ～夏号～

令和8年6月

茨城県県南農林事務所

稲敷地域農業改良普及センター

稲敷市江戸崎甲541 稲敷合同庁舎

TEL 029(892)2934

FAX 029(892)6684

Mail inanofu@pref.ibaraki.lg.jp



地域担い手の確保・育成を支援しています



青年農業士と江戸崎総合高校の学生との交流会
(いなしきアグリカフェ)



江戸崎総合高校インターンシップ
(かぼちゃ収穫作業)



農業学園
(株式会社根っこファーム視察)



サポートチームによる巡回指導

稲敷地域農業改良普及センターでは、管内の市町村、JA、普及センターで組織された就農支援協議会や、管内の農業三士等の活動を通じて新規就農希望者の就農、定着を支援しています。

就農支援では、市やJAと連携し、就農フェアへの出展や、個別相談会を開いて就農希望者の意向の聞き取り等を行います。その後、希望に応じた研修先の紹介や、相談者のスキルアップに向け、県が主催する「いばらき営農塾」等の受講支援を行っています。また、江戸崎総合高校の学生を対象に、青年農業士会と連携した交流会（いなしきアグリカフェ）等での就農啓発を実施しています。

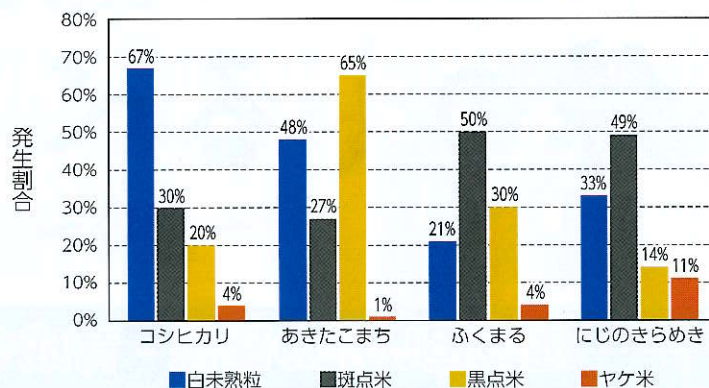
定着支援では、就農希望者が研修を通じて技術等を身につけ、営農の実現見通しが立った段階で、希望により青年等就農計画認定に係る申請書の策定等を支援しています。認定が認められ、独立営農を開始した後は、普及センターの主催する農業学園や、市町村、JA、農業経営士等で構成されたサポートチームによる巡回指導を通じて、生産技術の早期習得と収入の安定が図れるよう生産性向上を支援しています。

今後も稲敷地域に一人でも多くの就農者を確保できるよう、関係機関一丸となって支援に努めます。

今からできる水稻の高温対策

令和7年度に県が水稻の等級低下要因について調査した結果、「コシヒカリ」や「あきたこまち」では白未熟粒や黒点米、「ふくまる」や「にじのきらめき」では斑点米による等級低下が最も多くなりました。

今後も夏期の高温が続くことが予想されることから、今からできる高温対策をしっかりと実践し、品質向上を目指しましょう。



図：品種別の等級低下要因の発生割合調査結果（令和7年産米）

※茨城県農業技術課 HP より引用

夏期の栽培管理 ➡ イネの活力維持が高温対策のポイント

① 出穂後の間断かんがい

出穂前後は、1年の中で最も気温が高く、根の活力が低下する時期です。水深3cmほどに水を張り、自然落水した後、田面が乾く前に入水するサイクルを収穫前の落水時期まで繰り返しましょう。

② 耐暑肥

出穂期頃の葉色が淡くなりすぎると、白未熟粒の発生を助長します。出穂期1週間前頃に葉色が例年よりも薄い場合は、窒素で10a当たり1kgを目安に追肥しましょう。

イネカメムシの防除 ➡ 適期の防除が被害低減のポイント

①出穂期の防除（成虫防除）と②出穂期7～10日後の追加防除（幼虫防除）を必ず行いましょう。

※出穂期とは圃場全体の40～50%が出穂した日です。適期を逃さないように注意してください。

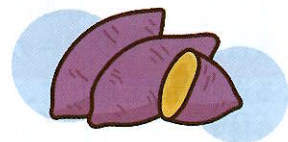
サツマイモ基腐病の発生に注意しましょう！

令和7年にひたちなか市で本県4例目となるサツマイモ基腐病の発生が確認されました。当普及センター管内での発生は確認されていませんが、令和8年産に向けて本病の侵入と蔓延を防止するため、種イモや苗で「持ち込まない対策」、「増やさない対策」が重要です。今回は生育期間の「増やさない対策」をご紹介します。

増やさない対策

①排水対策	基腐病は排水不良な場所で蔓延しやすいので表面排水や地下排水を良好にする。
②ほ場消毒	土壌消毒剤で土壌消毒を行う。使用の際は、地温と土壌水分（軽くにぎって崩れない程度）等の適切な条件下で実施する。薬剤処理後はビニール等で全面被覆を行い、消毒効果を高める。
③薬剤散布	使用可能な薬剤による予防散布を行う。

詳細については、右のQRコードからチラシをご覧ください。
定期的に生育状況を確認し、疑わしい症状を見つけたら普及センターへご連絡ください。



UFOクラブ 石塚健人氏が 「茨城県農業研究クラブ連絡協議会会長賞」を受賞！

牛久市UFOクラブの石塚健人氏(株式会社根っこファーム)が令和7年度茨城県農業青年プロジェクト実績発表会において「茨城県農業研究クラブ連絡協議会会長賞」を受賞しました。

当日は市の特産として知られている「うしく河童大根」の生産部会が一丸となっており、新規就農者確保の活動として、市や普及センターと協力し、新規就農者の呼び込み強化や研修費補助制度の創設などについて積極的に進めてきた事例を発表しました。この取り組みが高く評価され、受賞につながりました。

石塚氏は10月に開催される関東ブロック大会への出場も決定しています。今後も大根生産部会の活動を支援し、良い成果が得られるよう取り組んでいきます。



「第69回茨城県稲作共進会」で 株式会社サンフレッシュ美浦が「優秀賞」を受賞！

令和7年度第69回茨城県稲作共進会で、美浦村の株式会社サンフレッシュ美浦が「優秀賞」を受賞しました。この共進会は、米穀需要の動向に対応し、県産米の安定生産や品質向上等を実施している優良な稲

作農家を表彰するとともに、その成果を広く紹介することで生産技術の向上や県産米の品質改善に寄与することを目的とし開催しています。

サンフレッシュ美浦は、ドローンによる病害虫防除や営農管理システムを活用した作業計画の作成と適期作業になるよう効率的米づくりを実施しています。

今後も、需要に応じた米生産や生産技術のさらなる向上に取り組んでいただきたいと思います。



「飼料用米多収日本一」で塚本裕介氏が県内第3位受賞！

「飼料用米多収日本一」は、飼料用米生産技術の面から先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介することで、飼料用米生産農家の生産にかかる技術水準の向上を図ることを目的に開催されています。

令和7年度の当コンテストでは、稲敷市の塚本裕介氏が、収量684kg/10aの高単収を達成し、県内第3位の「協同組合日本飼料工業会企画振興委員長賞」を受賞しました。塚本氏は、飼料用米「ふくひびき」5ha作付しており、多収を達成するために、多肥栽培を基本とし、根の活力を維持するため落水を収穫1週間前まで遅らせたり、ドローンを活用した病害虫防除により収量向上に努めています。また、高密度播種による苗箱使用数の削減やプール育苗などでコスト低減も図っています。

今後も、需要に応じた米生産に取り組んでいただきたいと思います。



塚本裕介氏(右から2人目)

後継者クラブ のうけん のクラブ員募集中!

後継者クラブ「のうけん」は、稲敷市、河内町、龍ヶ崎市、牛久市、阿見町及び美浦村の若手農業者で構成されるクラブで、クラブ員同士の親睦を深め、農業生産技術及び経営の改善、地域農業の振興に寄与することを目的に活動しています。

クラブ活動として、先進農家の視察研修をはじめ、龍ヶ崎市のイベント「豊作村」への出店などを行っています。

現在、クラブ員が11名在籍し、情報交換や意見交換を重ねながら、楽しく活動しています。クラブ活動は、若手農業者同士のつながりを深めるだけでなく、日々の営農に役立つ知識や経験を共有できる貴重な機会となっています。

新規クラブ員を随時募集していますので、少しでも興味のある方は、ぜひ普及センターまでご連絡ください!

令和8年度活動予定表

7月	農作業情報交換会
10月	豊作村出店
12月	情報交換会
1月	先進農家研修



令和9年度 県立農業大学校学生募集のお知らせ

ホームページ



出願資格やオープンキャンパスについて、詳しくは右のQRコードから茨城県立農業大学校ホームページをご覧ください。

◆オープンキャンパス体験入学会

令和9年度入学希望者向けとしていますが、高校2年生、1年生、それ以外の方で県立農業大学校に興味がある方の参加も可能です。

【長岡キャンパス】 令和8年7月30日(木)

農学科(普通作コース、露地野菜コース、果樹コース)
畜産学科

【岩井キャンパス】 令和8年7月31日(金)

園芸学科(施設野菜コース、花きコース)

◆入学願書の受付期間

◎推薦入試

令和8年9月28日(月)～10月16日(金)

◎一般入試 前期・研究科 前期

令和8年11月16日(月)～12月10日(木)

◎一般入試 後期・研究科 後期

令和9年2月1日(月)～2月25日(木)

耕す喜び育む未来へ～茨城農大で学ぼう～

令和9年度
入学生
募集

入試日程

推薦入試	一般入試・研究科(前期)	一般入試・研究科(後期)
令和8年 10月28日 日	令和8年 12月17日 日	令和9年 3月4日 日

茨城県立農業大学校
Ibaraki Prefectural Agricultural College

(お問い合わせ) 〒311-3116 茨城県長岡 4070-186
TEL: 029-292-0010 FAX: 029-292-0903

茨城県立農業大学校

【お問合せ先】 茨城県立農業大学校 電話：029-292-0010 FAX：029-292-0903